

栄養摂取の状態に関する患者調査

日本慢性期医療協会

終末期委員会委員長 平田 済

現在わが国は、急速な人口の高齢化、脳血管障害患者、認知症患者の増加により、寝たきり高齢者も増加している。患者の意思決定のあり方、食べられなくなった時の栄養管理、呼吸管理も含めた誤嚥性肺炎への対応など、終末期医療のあり方も含めて大きな課題となっている。

胃瘻を造設する患者も右肩上がりに増加しており、民間の調査機関によると2008年度の新規造設件数は20万件、交換件数は60万件と報告されている（NPO法人PEGドクターズネットワークホームページより）。

これらは欧米とは大きく状況は異なっており、民族、歴史、文化の違いもあるが、どのように考えていったらよいか模索中である。たとえば、「高齢者医療および終末期医療における適切な胃瘻造設のためのガイドライン策定に向けた調査研究事業」が昨年行われており、「認知症患者の胃瘻ガイドラインの作成 原疾患、重症度別の適応・不適応、見直し、中止に関する調査研究」（PEGドクターズネットワーク）、「胃瘻造設高齢者の実態把握及び介護施設・在宅における管理等のあり方の調査研究」（全日本病院協会）も行われる予定である。本年7月にはNHK教育テレビで「食べられなくても生きられる～胃瘻の功と罪」という番組も紹介されている。

今回の調査では、医療保険療養病床対象であったが（回答施設数312病院）、入院患者のうち、経鼻胃管が13.1%、胃瘻または腸瘻造設患者が28.8%、併せて41.8%という結果であった。単純に敷衍すれば、医療保険療養病床では10万人規模で経管栄養の患者をみていることになる。同様報告としては、「療養病床における経管栄養の施行実態とその関連要因に関する調査」がある（2008年3月、会田薫子 東京大学大学院老年科学分野）。同報告では、療養病床を有する277病院の入院患者における経管栄養施行患者は32.5%であった。今回調査との頻度の差は、2008年報告では有効回答率が38.5%と低いこと、介護保険療養病床を含んでいることなどが考えられるかもしれない。

今回の調査も参考にしながら、終末期委員会として取り組みを継続したい。

調査対象 医療保険療養病床
 調査月 平成22年6月
 調査主体 終末期委員会

	回答施設数	合計	100床あたりの患者数	入院患者数に占める割合(%)
医療保険療養病床 病床数(床)	312	29,384	-	-
入院患者数(人)	312	28,102	95.6	100.0
経管栄養を行っている患者数(人)	310	11,750	40.0	41.8
うち経鼻胃管患者数(人)	282	3,668	12.5	13.1
うち胃瘻(腸瘻含む)患者数(人)	306	8,082	27.5	28.8
中心静脈栄養の患者数(人)	213	2,000	6.8	7.1
気管切開をしている患者数(人)	273	3,371	11.5	12.0